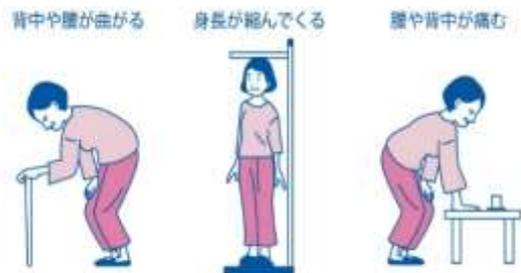


薬剤科 DI ニュース

骨粗鬆症治療薬について

骨粗鬆症とは、骨密度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる疾患であり、日本の推定患者数は約1280万人です。骨折により背中が曲がる円背、身長低下など容姿にも影響を及ぼすうえ、寝たきりや慢性腰痛、要介護の原因にもなります。女性に多い疾患ですが、男女ともに骨の健康を保つことが大切であり、すべての年齢を通じて骨粗鬆症を予防することが必要です。

骨粗鬆症患者に対しては、薬物治療は必須となっており、主な骨粗鬆症治療薬についてまとめてみました。



ビスホスホネート薬

破骨細胞に作用し、過剰な骨吸収を抑えることで、骨密度を増やす作用があります。経口剤、注射剤などがあります。服用の仕方として4週間に1回、1週間に1回、1日に1回などがあります。

一般名	主な商品	投与方法
ゾレドロネート	リクラスト点滴静注液	5 mg/回 1回/年 点滴静注
イバンドロネート	ボンピバ静注 1 mgシリンジ	1 mg/回 1回/月 静脈内投与
	ボンピバ錠 100 mg	1錠/回 1回/月 起床時
アレンドロネート	ボナロン点滴静注バッグ 900 μ g	1バッグ/回 1回/4週 点滴静注
	ボナロン経口ゼリー35 mg	1包/回 1回/週 起床時
	フォサマック錠、ボナロン錠	35 mg:1錠/回 1回/週 起床時 5 mg:1錠/回 1回/日 起床時

リセドロネート*	アクトネル錠、ベネット錠	75 mg:1錠/回 1回/月 起床時
		17.5 mg 1錠/回 1回/週 起床時
		2.5 mg:1錠/回 1回/日 起床時
ミノドロン酸*	ボノテオ錠、リカルボン錠	50 mg:1錠/回 1回/4週 起床時 1 mg:1錠/回 1回/日 起床時

抗 RANKL 抗体薬

破骨細胞の形成や活性化に関わるたんぱく質(LANK リガンド)に作用して、骨吸収を抑制します。6ヵ月に1回の皮下注射のため、継続しやすいというメリットがあります。

デノスマブ*	ブラリア皮下注 60 mgシリ ンジ	60 mg/回 1回/6ヵ月 皮下投与
--------	-----------------------	---------------------

抗スクロスチン抗体薬

骨形成を抑える物質の働きを抑えることで骨密度を増やし骨折を予防する薬です。骨吸収を抑制する作用も考えられています。

ロモズマブ	イベニティ皮下注 105 mgシ リンジ	210 mg/回 1回/月 12ヵ月皮下 投与
-------	-------------------------	----------------------------

副甲状腺ホルモン薬

新しい骨をつくる骨芽細胞を活性化させ、骨強度を高めます。骨密度が非常に低いなど骨折リスクが高い患者さんに適した薬です。現在、1日1回患者さんが自分で注射をする皮下注射剤と、週1回医療機関で皮下注射してもらうタイプとがあります。

テリパラチド酢酸塩	テリボン皮下注 56.5 μ g	56.5/回 1回/週 皮下投与
	テリボン皮下注 28.2 μ g オートインジェクター	28.2 μ g/回 2回/週 皮下投与
テリパラチド*	フォルテオ皮下注キット 600 μ g	20 μ g/回 1回/日 皮下投与

*がついているものは院内採用品あり。詳細は薬剤部まで

参考文献:各薬剤の添付文書
月間薬事 2023 Vol65 No2

薬剤部 徳丸